

# 公開実用平成 3-31900

⑬ 日本国特許庁(JP)

⑩ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

平3-31900

⑤ Int. Cl.<sup>8</sup>

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 平成3年(1991)3月28日

C 12 M 1/00  
// C 12 M 1/22

C 8717-4B  
8717-4B

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全 頁)

⑭ 考案の名称 使い捨て培養袋用保持具

⑮ 実 願 平1-91111

⑯ 出 願 平1(1989)8月2日

⑰ 考 案 者 笠 原 信 次 静岡県賀茂郡東伊豆町稲取3323-19

⑱ 出 願 人 笠 原 信 次 静岡県賀茂郡東伊豆町稲取3323-19

## 明 細 書

1、考案の名称 使い捨て培養袋用保持具

2、実用新案登録請求の範囲

- 1、開口直立状態のまま袋を保持するような機能を持つ口金と脚付き締め付け具よりなる（又はコップ状の）袋保持具

3、考案の詳細な説明

（産業上の利用分野）

この考案は植物や微生物、昆虫等の固体培地で  
の無菌培養に於て、ガラス容器に代り耐熱性の  
透明フィルムでできた使い捨ての袋を用いる為  
の保持器具に関するものである。

（従来技術）

従来、植物、微生物の寒天培地用容器としては  
主にガラス容器が用いられていた。

（考案が解決しようとする課題）

しかしガラスは重く、培養後植物を取り出す為  
には割らねばならず、繰り返し使用できるタイ  
プのものでも残った寒天の洗浄に多大の経費と  
労力を必要とした。

ポリプロピレン等、耐熱性の透明なフィルムで作られた袋をこの目的に使用できれば、単価的にも安く、使い捨てとすることで上記の問題をクリアーできるのであるが、その為にはその袋を直立開口状態に保ち、し、かりとした蓋により培養物の出し入れが可能となる器具が必要となる。

(課題を解決する為の手段)

第3図のように、袋を装着し易いように内側を伸ばし、更に中心部に向けて絞、た口金(耐熱性プラスチック)に袋をセットし、それを外側より締付けるような形で第1図のような辺縁材を持つ脚部、又は第2図のような筒部を嵌入し、袋を口金に固定かつ密着させる。

(作用)

この脚部(筒部)と口金により袋が開口直立し、口金と袋は密着する為そこからの雑菌、空気の流入を断ち、培養上必要な酸素は口金と蓋との隙間を通して入る為、必要に応じてそこにフィルター等を挟む事により無菌的な培養が可能

となる。

又、底部及び底部外周が固定される為、内容物により袋が変形する事無く、一方側部が開放状態の為、透明のフィルムを通して内部の観察が容易にできる。



#### (実施例)

袋を口金にセットし、その外側より辺縁材で締め付けるような形で脚部を嵌入し、培養物の殺菌後袋の潰れを防ぐ為、脚部の上からセロテープ等で袋を数ヶ所止める。

これに蓋をセットし、そこから培地、培養物の出し入れを行い、使用後は口金部より脚部を外し、袋を捨てる。

#### (考案の効果)

この器具により、植物、微生物、昆虫等の無菌的培養が安価な袋で可能となり、経済性、作業性の点で向上する。

#### 4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案の脚部

第2図は脚部をコップ状とした場合

第3図は本考案の口金部

第4図は装着状態の断面図

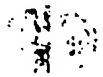
(1)は口金 (2)は袋 (3)は脚部 (4)は脚部辺縁材

(5)は蓋 (6)はセロテープ

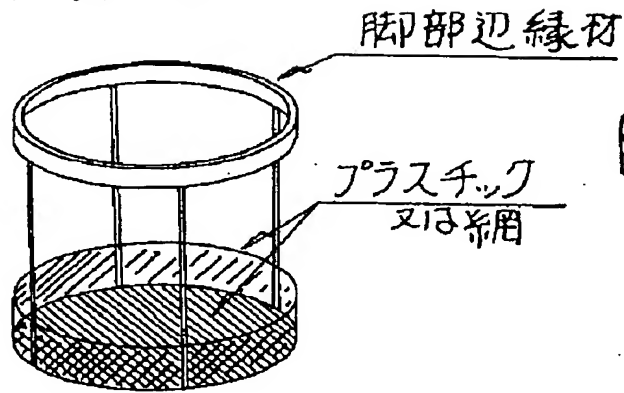
第5図は蓋

実用新案登録出願人 笠原信次

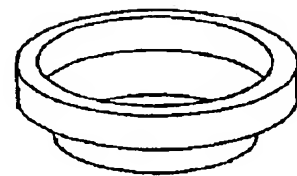
図 面



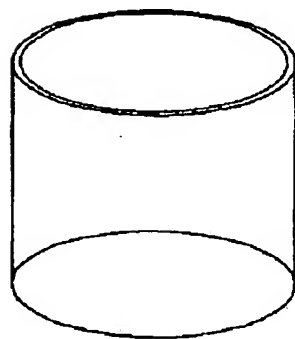
第1図



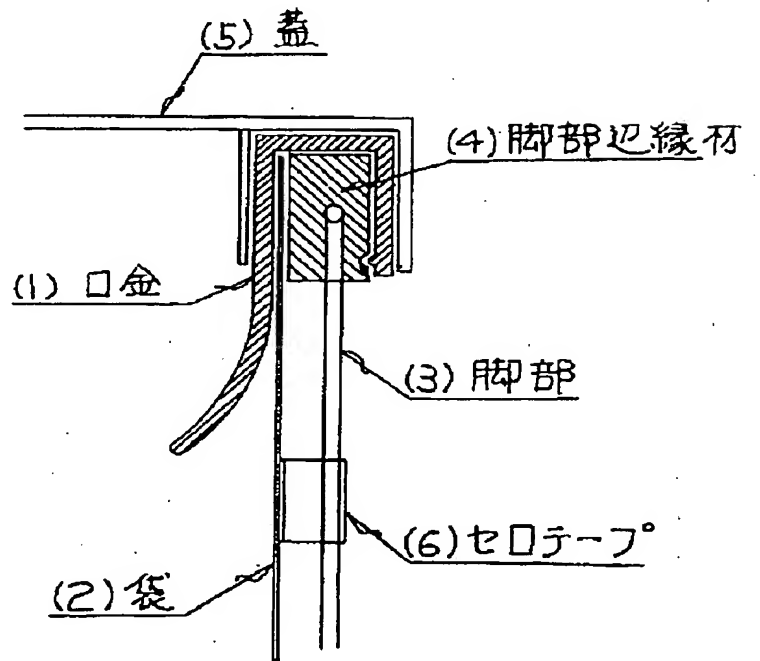
第3図



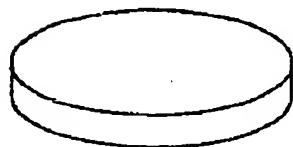
第2図



第4図



第5図



実用新案登録出願人 笠 原 信 次

1341 + 2 実開3-31900